

令和6年度 第1回碧南市民図書館協議会 会議録

1 日時

令和6年7月5日（金） 午前10時～午前11時30分

2 場所

碧南市民図書館 2階会議室

3 出席者

（1）出席者

宮本美枝子、浅井久夫、角谷竹虎、山岸芳樹、角谷秀樹、
石川文也、小島逸男、三島晴子、松崎三津江、酒井宏樹

（2）事務職職員

教育長 生田弘幸、教育部長 山田昌宏、生涯学習課長 榊原圭司、
市民図書館館長 大橋幹広、南部分館長 関由香、
中部分館長 長田和子、市民図書館副館長 長谷川有里

【会議録】

① 令和5年度図書館の事業実績について

事務局：冊子資料『碧南の図書館 2024』をもとに説明

（1）「図書館資料の収集」について

・「逐次刊行物」について

5年度と比較して6年度は雑誌が3タイトル増えている。これは雑誌スポンサー制度の導入により、2件のスポンサーから3冊の提供を受けたためである。周知に努めスポンサー数を増やしていきたい。

・「電子図書」について

電子図書館を導入した令和3年度に購入した資料のライセンスが切れたため、令和5年度は新規受け入れタイトル数が多くなった。

（2）「図書館の利用に関する状況」について

・入館者数、貸出点数について

入館者数は219,427人で4年度と比較して16,000人、率にして7.9%の増、貸出点数は514,624点で14,000冊、率にして2.8%の増となった。コロナ前の水準は戻っていないが増加傾向にある。

・令和5年度の事業について説明

本館では、令和5年度が本館開館30周年だったためそれを記念した事業が行われた。南部分館では、11月のへきにゃごまつりで「おかしのおはなし会」が和室を使用して行われ、親子の利用者に大変好評であった。今後も南部分館の施設の特性を活かした行事を企画してい

きたい。中部分館では、11月のへきにゃごまつりの「ご注文をどうぞ」が好評であった。また、2月には、おはなし会と抹茶の点て方が体験できる「お茶を楽しむおはなし会」を実施した。分館ならではの小回りの良さを活かした企画を今後も実施していきたい。全館で本館開館30周年を記念して、全館で毎月30日を「図書の貸出無制限の日」とした。

② 令和6年度図書館の事業計画及び関係予算について

事務局：配布資料をもとに説明

(1) 令和6年度事業計画について

図書館を利用していない方にも、図書館に足を運んでもらえるような行事を職員が企画している。

全館共通の定例行事として、対象別に「おはなし会」、「おひざにだっこのおはなし会」、「絵本の時間」を各館で継続していく。開催当日に参加者の年齢に合わせ内容を変更する等、きめ細やかな対応を心がけている。また月間の行事としては、6月の「こどもとしょかんまつり」、7月の夏休み行事、11月の秋の読書月間行事がある。

ボランティア育成講座、成人を対象とした講座（ともに年2回）は継続していく。読み聞かせボランティア講座と成人を対象とした「はじめましての俳句講座」はそれぞれ5月と6月に開催し好評だった。

【質疑応答】

会長：「はじめましての俳句講座」と「ボランティア養成講座」について具体的に説明してほしい。

事務局：本館では年に2回一般成人を対象に講座を開催している。今年度の第1回目として「はじめましての俳句講座」を開催した。多くの方に興味を持ってもらうように、様々なジャンルの講座を行っている。また「ボランティア養成講座」では毎年、読み聞かせボランティアや音声訳ボランティア向けの講座を行っている。5月に行った読み聞かせボランティア向け講座では、複数の講師に依頼し講師ごとに趣向を変えた内容になっていた。今年度はボランティア経験がない受講者もいたが、アンケート結果を見ると概ね好評だった。

A委員：「はじめましての俳句講座」について補足したい。講師は現代俳句協会の副会長で以前からの知り合いであった。図書館で俳句講座を行いたいとのことで講師を紹介した。現代俳句協会としても図書館などで講座が開催できればと以前から考えていたようで、今回は両者の思いが一致して実現できた。

会長：人材の掘り起こしは大事。昨年行われた三河弁の講座の講師も碧南の方

だった。

B 委員：資料に載っている図書館利用者は碧南市民だけなのか、近隣市の利用者も含んでいるのか。近隣市の利用者の割合はどのくらいか。また、新刊を選ぶ基準はあるのか。市民からの資料購入等の要望は受付けてくれるのか。

事務局：資料に載っているデータは市内の方と市外の方の区別はしていない。碧南市民図書館を利用できるのは衣浦東部 5 市、西尾市、半田市の住民および在勤、在学している方である。

新刊の本は各館の司書が新刊のリストから本を選び、購入を選書会議で決定している。資料を効率よく購入するため、本館と各分館で購入する資料が重ならないようにしている。

市民からの購入等希望についてだが、リクエストカードに記入して頂き、図書館で購入をするか、購入ができない場合は他市の図書館から借りて提供するようにしている。

会長：広報へきなんに司書がすすめる本が載っているが、それはどのような基準で選んでいるのか。

事務局：図書館職員（司書）が季節に合わせたものや世相に合わせたものを選んでいる。

C 委員：利用状況について聞きたい。利用者数というのは貸出をした利用者の数なのか。

事務局：貸出をした利用者数のことである。

C 委員：入館者数のカウント方法について知りたい。延べ数でカウントされるのか、1 人 1 日 1 回なのか。

事務局：各館の出入口にカウンター装置が設置されており、それで入館者数を数えている。延べ数でカウントしている。

D 委員：電子図書はいつから始まったのか。またその利用方法について知りたいのだが、ホームページを見れば確認できるのか。

事務局：電子図書は令和 3 年 1 1 月から開始している。図書館のホームページから利用できるが、利用には利用者カードの登録等が必要。PR 不足が課題である。

会長：電子図書を利用するが、スマートフォンで読むと字が小さく若者向けではないかと思う。またタイトル数も限られている。電子図書の PR や高齢者向けの対策を考えてもらいたい。

事務局：電子図書にはメリットもあり、図書館が閉館しているときでも使うことができる。統計を見てみると閉館後から深夜 0 時ごろにログインをする利用者が全体の半分になっている。今後、閉館時の利用方法の一つとして使われていくのではないかと期待している。郷土資料のデジタル化も考えており、資料の保存という観点からも電子図書を活用していきたい。

今回頂いたご意見も含めてPRの方法など改善していきたい。

事務局：事務局：冊子資料『碧南の図書館 2024』をもとに説明

- ・令和6年度の予算について

「図書館費の構成」について、今年度予算と昨年度予算とを比較して、増減のあったものと特徴があるものについて説明する。

報償費が減少しているが、昨年度は三河部の図書館で構成される「三河公立図書館協議会」において、研修会を行う当番市となっていたため増となっていた。「消耗品費」は、消毒用アルコールの購入の取りやめとペーパーレス化推進でプリンタ用トナー等の使用量が減ったため減となっている。「修繕料」は、昨年度緊急の修繕があり当初予算から増額されたが、今年度は通常通りの予算額に戻ったため減となっている。使用料及び賃借料は、今年度中部分館で照明器具のLED化が予定されており、そのリース料が増額されている。14節の工事請負費は本館玄関ひさし修繕の予算となっている。備品購入費はほぼ資料購入費（図書・視聴覚資料）であり昨年度並みの予算となっている。新聞・雑誌は、消耗品費であるが、こちらも昨年度並みの予算となっている。また、その他の261,000円は、本館の拡大読書器の買い替え用の予算である。

図書館の本は1年限りのものではなく、長年使っていくものである。そのため図書館員は何を購入し、残していくのかということに日々頭を悩ませながら本を選んでいる。今年購入した本を10年後必要としている人がいるかもしれないという視点で選書をしている。

【質疑応答】

E委員：中学校では図書館の活用がなかなかできていないと感じている。小学校では図書館の行事を行っていが、中学校では図書館の予定を組み込んでいくことが難しい。何か良い方法がないかと図書館担当教諭と頭を悩ませている。

会長：中学校では朝読を行っているのか。

E委員：行っている。おそらくどの学校でもやっていると思われる。

会長：図書館の団体貸し出しは活用しているのか

E委員：団体貸出は大変ありがたい。どの学校でも活用していると思う。

F委員：登録者数が50,669人のうち1年間で実際に図書館を利用したのは何名か。

事務局：登録者数というのは利用者カードを持っている人の数。その中で実際に利用した延べ人数は冊子資料に示している。別の資料に昨年1年間で登録者のうちどれだけの人が利用したかが分かるものがあるので、後程見ていただきたい。

F 委員：登録だけをして実際利用していない人もいる。そういった人の利用を促進していく必要がある。

子どもたちに夏休みをどう過ごさせるかに頭を悩ませている。図書館で子どもたちを引き寄せてくれるような事業があればよいと思う。また、読書感想文の宿題があるがそれを図書館で解決してくれるような事業を望んでいる。

会長：こういった意見も企画のなかにうまく取り入れてもらいたい。

(5) その他

課長：次回の第2回図書館協議会の日程については令和7年3月を予定している。碧南の図書館サービス計画第2次の計画進捗状況について報告する予定である。

【質疑応答】

B 委員：読書グループについて聞きたい。どのような活動をしているのか、見学することはできるのか。

事務局：開催日時がずれることもあるため、本館に問い合わせをしていただきたい。興味があるグループがあれば見学していただきたい。

A 委員：読書グループのPRは大事だと感じていた。リサイクル本バザーのときに読書グループの紹介パネルを作成し展示した。なかには興味を持っていただける方もいて、質問も受けた。

課長：これで令和6年度第1回碧南市民図書館図書館協議会を終了する。